

6 不登校児童生徒の学校復帰支援

1 事業目的

心理的または情緒的理由により長期欠席している児童生徒に対して、小集団による体験学習及び学力保障を中心に、集団への適応と自立を促し、学校復帰を支援する。

2 実施方針

- (1) 学校等の管理の下、適応教室「やまびこ館」・第2適応教室「学習支援室」を運営する。
- (2) やまびこ館運営委員会を開催し、学校復帰支援の充実を図る。
- (3) 大学等との連携により、メンタルフレンドによる家庭訪問を実施する。
- (4) 「不登校を考える親のつどい」の名称を変更し、不登校で悩む保護者の相談の場を設定する。

3 実施内容

- (1) 学校等の管理の下、適応教室「やまびこ館」・第2適応教室「学習支援室」の運営
 - ① 入館を希望する児童生徒がいる場合は、学級担任・学年主任・生徒指導(不登校)担当と事前に十分に情報交換をするとともに、教育相談・SC・SSWに関わる児童生徒については連携を行う。
 - ② こども家庭課、川西こども家庭センター、県立但馬やまびこの郷など関係機関との協力体制を確立し、必要に応じて連携する。
 - ③ 通館生の状況について月報、電話連絡、学校訪問等で随時学校に知らせ、家庭訪問等不登校児童生徒への学校からの働きかけを支援する。
 - ④ 適宜、「やまびこ館」指導員による学校訪問を行う。
 - ⑤ 通館生の不登校の要因および適応教室での支援体制等の情報を共有するため、相談担当と連携を図り、一人一人の支援の方向性等を決定する。
- (2) やまびこ館運営委員会の開催
 - ・ 伊丹市の小・中学校の不登校児童生徒の実態を把握し、学校復帰支援についての研修を行うとともに、適応教室「やまびこ館」、第2適応教室「学習支援室」を管理・運営し、集団による適応指導をとおして学校復帰や社会的自立をさせることを目的とし開催する。(年間2回予定)
- (3) メンタルフレンドによる家庭訪問の実施
 - ・ 大学等との連携によりメンタルフレンド・やまびこ館指導補助員の登録者を増やし、メンタルフレンド派遣希望者のニーズや適応教室通館生の増加に対応できる体制を整える。
- (4) 「子どもの思春期を考える親のつどい」(旧：不登校を考える親のつどい)の開催
 - ① 不登校で悩む保護者の情報交換の場を設定する
 - ② 伊丹市内の小・中学校に呼びかけ、講演会后、個別相談会を実施する。

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 適応教室入館・通館状況に係る情報交換を、学校、SC、SSW、総合教育センター教育相談員および教育相談担当指導主事等と行うことで、通館生に対する指導を充実させることができた。

学校訪問等による情報交換	47回
SSW等との情報交換	10回
- ② チャレンジタイム期間中、午後から開館することで、学校に行けない通館生の居場所を確保することができた。

- ③ 適応教室「やまびこ館」通館生 15 人のうち 13 人、第 2 適応教室「学習支援室」通館生 21 人のうち 17 人が部分登校や別室登校、放課後登校などができている。

(2) 課題

- ① SC、SSW、教育相談、関係機関等との連携を継続するとともに、適応教室と学校が緊密に連携を行うことで、学校からの家庭訪問等に役立てるなど、学校からの不登校児童生徒への働きかけを促す必要がある。
- ② 通館生の生徒指導上の問題への対応については、学校と連携を密にし、情報共有した上で、生徒への指導および保護者への説明を行い、個々に応じた支援をする必要がある。
- ③ やまびこ館運営委員会のあり方について、今後検討していく必要がある。
- ④ 不登校児童生徒に対して個に応じた支援を充実するために、メンタルフレンド・やまびこ館指導補助員を確保する必要がある。
- ⑤ 「子どもの思春期を考える親のつどい」への参加者が多かった。講演後の個別相談も希望者が多く、面談する人員の確保の必要がある。

5 実施状況

(1) 適応教室「やまびこ館」について

① 在籍児童生徒の状況

3月末在籍人数	学年別 在籍人数		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計	通館人数
	平成30年度	在籍	男	0	0	0	0	0	0	0	2	1	
女			0	0	0	0	0	0	0	6	4	10	
体験入館		男	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
		女	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
計		0	0	0	0	0	0	2	8	5	15		
平成29年度末	男	0	0	0	0	0	0	2	1	5	8	20人	
	女	0	0	0	0	0	0	5	4	3	12		
	計	0	0	0	0	0	0	7	5	8	20		

② 学校復帰状況

通館生 15 人中 13 人 (86.7%) が学校復帰 (平成 29 年度 16 人中 13 人 (81.3%))

③ 館外学習

日時	場所	通館生参加人数(実数)
7月2日(月)～ 7月6日(金)	県立但馬やまびこの郷 (宿泊体験)	8人
12月18日(火)	陶の里	10人
2月27日(水)	お別れ遠足	12人

④ 館内学習

- ・学習(午前、午後 各1時間程度)
- ・運動(毎週水曜日午後 女性児童センターで各種運動 10月からは週1回スワンホールでバトミントンを実施)
- ・調理実習 学期1回程度

⑤ チャレンジタイム実施状況

	在籍	完全登校	部分登校	適応教室への通館
1学期(4月)	7人	3人	4人	4人
2学期(8～9月)	13人	3人	3人	8人
3学期(1月)	15人	2人	3人	4人

(2) 第2適応教室「学習支援室」について

① 在籍児童生徒の状況

3月末在籍人数	学年別 在籍人数		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計	通館人数		
	平成30年度	在籍	男	0	0	0	0	0	0	2	0	6		8	21人
			女	0	0	0	0	0	0	2	4	5		11	
		体験入館	男	0	0	0	0	0	0	1	0	0		1	
			女	0	0	0	0	0	0	0	1	0		1	
計			0	0	0	0	0	0	5	5	11	21			
平成29年度末		男	0	0	0	0	0	0	0	5	5	10	18人		
		女	0	0	0	1	0	1	2	2	2	8			
	計		0	0	0	1	0	1	2	7	7	18			

② 学校復帰状況

通館生 21人中 17人(81.0%)が学校復帰(平成29年度 18人中 9人(50.0%))

③ チャレンジタイム実施状況

	在籍	完全登校	部分登校	適応教室への通館
1学期(4月)	8人	3人	2人	1人
2学期(8~9月)	16人	2人	1人	3人
3学期(1月)	18人	2人	4人	2人

(3) やまびこ館運営委員会の開催

委員長 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 吉田 圭吾 教授

副委員長 伊丹市立西中学校 大西 規之 校長

第1回 7月19日(木)

- 内容 ① 適応教室の状況
 ② 市外適応教室の見学報告
 ③ 市内の不登校の状況及び今後の不登校対策

第2回 2月19日(火)

- 内容 ① 適応教室の状況
 ② 市内の不登校の状況及び今後の不登校対策
 ③ 今後の適応教室の方針について

(4) メンタルフレンド派遣事業

① 派遣状況

3月末在籍人数	学年別 在籍人数		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計	人数	
	平成30年度	男	0	0	0	1	0	2	0	0	1	4		10人
		女	0	0	0	2	1	1	1	1	0	6		
		計	0	0	0	3	1	3	1	1	1	10		
	平成29年度末	男	0	0	1	0	2	1	0	1	0	5		6人
女		0	0	0	0	0	0	0	1	0	1			
計		0	0	1	0	2	1	0	2	0	6			

② 登録メンタルフレンド数 10人 訪問のべ回数 80回

(5) 「子どもの思春期を考える親のつどい」の開催

7月10日(火)

対象 市内児童生徒等の保護者

講師 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 齊藤 誠一 准教授

講話と質疑・意見交流「不登校児童生徒との関わりをとおして」

参加者 38人